

なし管理情報 No.6

令和6年7月26日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 「幸水」の生育概況

- 満開97日後(7/22)の横径は、70.1mmと前年より大きく、平年並み(前年比105、平年比102)。肥大最盛期は、平年より遅い7/11頃から始まった。
- 裂果は、7月中旬頃から発生し始め、発生は少ない(7月25日時点)。

2 病虫害防除

<発生状況>

- 黒星病：7月中旬(7/11)の発病果そう率は18.7%で、R1年以降、最も多い。別紙参照。
- ナシヒメシンクイ：第3世代のトラップへの誘殺数は平年より多く、発生が多い。
- チャバネアオカメムシ：トラップへの誘殺数は、多発年(R2)に比べかなり多い。
被害果は、少～中発生。
- ハダニ類：7月中旬までは未確認。

<防除のポイント>

- 自園地の害虫の発生状況をこまめに観察し、発生状況に応じて、下記の特別散布を実施する。

<薬剤防除>

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当り散布量	対象病虫害	実施日(自己記入)
-	7/27~28	ナシヒメコンの設置	50本/10a	ナシヒメシンクイ	
特散	<u>ハダニ類発生時</u>	マイトコーネフロアフル 1,000倍 (収穫前日まで)	350 ㍓	ハダニ類	
特散	8月上旬頃 (幸水収穫前) <u>シンクイムシ類、カメムシ類の被害が予想される場合</u>	アグロスリン水和剤 2,000倍 (収穫前日まで) または サムコルフロアフル10 5,000倍 (収穫前日まで) または テッパン液剤 2,000倍 (収穫前日まで) ★ <u>ハダニ類の発生が見られる園では、アグロスリン水和剤を散布しない</u> (ハダニ類の天敵に影響があるため)	350 ㍓	<u>シンクイムシ類、カメムシ類</u> ハマキムシ類、アブラムシ類 <u>シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類</u> <u>シンクイムシ類、カメムシ類</u> ハマキムシ類	

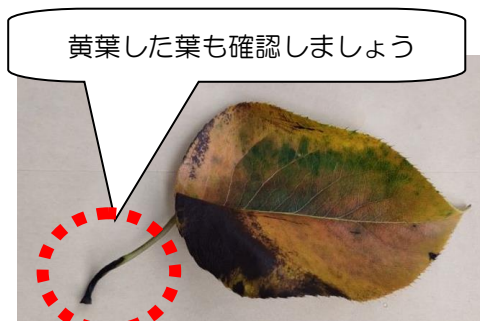
※テッパン液剤はR6防除暦に記載のない農薬です。

(1)黒星病対策

- ・現在、「幸水」の果実が黒星病に感染しやすい肥大最盛期に入っている。肥大最盛期が終わるまで（8/5頃まで）の散布間隔は、7～10日間を目安に降雨前散布を心掛け、十分量を散布したうえで、以下の対策を徹底する。

①罹病果・罹病葉の処分（重要！）

- ・黒星病は、降雨後15日程度の潜伏期間を経て発病することから、黒星病が発生している園地では、収穫まで園地を見回り、罹病果、罹病葉の摘み取りを徹底する。



②園地周囲の補正散布

- ・SSによる防除は園地外周部に死角がでやすいため、補正散布を徹底する。

(2)木材腐朽菌対策

- ・なし樹にきのこ（子実体）の発生を確認した場合は、早めにきのこを除去して園地外で処分し、きのこからの孢子の飛散を防ぐ。
- ・腐朽部分は、削り取り、保護殺菌剤を塗布する。

(3)カメムシ類対策

- ・カメムシ類の被害果が多い場合や日中の園地で成虫を複数確認した場合は、アグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで、3回）、またはテッパン液剤（2,000倍、収穫前日まで、2回以内）を特別散布する。
- ※薬剤は、他の害虫の発生状況に応じて選択する

(4)シンクイムシ類対策

①ナシヒメコンの設置

- ・設置方法はコンフューザーNと同様。外装のアルミフィルムを開封したまま放置すると有効成分が揮散するため、必ず使用直前に開封し、使い切る。

②殺虫剤の特別散布

- ・今年は、ナシヒメシンクイのトラップへの誘殺が平年より多いことから、「幸水」収穫前後に殺虫剤の特別散布を実施する。
- ※薬剤は、他の害虫の発生状況に応じて選択する。

(5)ハダニ類対策

- ・ハダニ類は、高温乾燥条件で急激に増える。
- ・ハダニ類の発生を見つけ次第、マイトコーネフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、1回）を特別散布する。

※マイトコーネフロアブルは、サムコルフロアブル10、テッパン液剤と混用可能

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

3. 今後の管理ポイント

【収穫準備】

- ・今年の「幸水」の収穫開始は、8月中旬頃と予想され、前年より遅く平年並みと見込まれる。収穫予定の1週間ほど前から試し取りを行い、自園地の収穫適期の把握に努める。

【着果管理】

- ・着果量が多い樹は、裂果の程度を確認しながら、補正摘果で着果量を調整する。

【新梢管理】

- ・予備枝や陰芽から発生した新梢は、7月（新梢伸長停止後）に誘引し、花芽の着生を図る。ただし、着果不足等で新梢の伸長が旺盛な樹は、芽かきや夏季剪定を行い、受光環境を良好に保つ。

【土壌水分管理】

- ・高温乾燥状態が続く場合は、ほ場が乾燥しすぎないように5～7日間隔で朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。なお、「幸水」の収穫期に近づいてからのかん水は、糖度低下の懸念があるため控える。

【強風対策】

- ・台風による強風に備え、防風網、果樹棚等の点検、補強を行う。

【今後の気象】

- ・向こう1ヶ月（7/27～8/26）は、平年と同様に晴れの日が多く、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。1ヶ月通しての気温は平年に比べ高い、降水量は平年並み～多い、日照時間は平年並みと予報されている（新潟地方気象台7月25日発表）。台風を含めた今後の気象情報に注意し、天候に応じた対策を実施する。

4. 熱中症対策

- ・極力、気温の高い時間帯の作業を避ける。
- ・こまめな水分補給と休憩をとる。
- ・保冷剤などの熱中症対策アイテムを利用し、からだの蓄熱を避ける。

<お知らせ①>

- ・黒星病の全園地調査を8月上旬（収穫直前）と8月中下旬（収穫中）に行います。

<お知らせ②>

- ・次号は、8月下旬（幸水の収穫終盤）の発行を予定しています。